

2019 年度日米学生交流プログラム (MSU 受入プログラム) に参加して

E 類多文化共生教育コース 1 年

南場実咲

私がこのプログラムを知ったのは学芸フロンティア B の授業を受けた時でした。元々留学や海外の学生と交流することに興味は抱いていましたが、金銭面や学業面で心配なことが多く、いきなり海外に行くことは少しためらっていました。そんなときに学芸で MSU の学生と交流ができ、海外にルーツのある子どもたちが多い教育現場を見学できるプログラムがあるという話を聞きました。今自分はどれくらい英語を話せるのか確かめたい、自分が学びたいと思っている学校現場に行きたいと思い参加を決めました。実際に参加してみると、受験期にあんなに勉強していたはずの英語が全く出てこず、コミュニケーションがあまりとれませんでした。ほかの学生が普通に話しているのを見てもっと頑張らないといけないと痛感しました。

プログラム中は都内の中学校に行き英語で授業をしたり、高校に行き生徒と交流をしたりしました。MSU 生のサポート役ではありましたが、1 年生のうちから生徒に授業をした経験や、普段あまり接する機会がない人たちとの交流はとても貴重だったと思います。どうやら生徒たちが自分から英語を話してくれるのか、また授業の雰囲気作りを一から考えるのが面白かったです。しかし、今回のプログラムにすべて参加するために授業を休むことになってしまったので、その後の授業(特に言語)についていくのが少し大変でした。



今回このプログラムに参加してみて英語を使うことの楽しさを知ることができ、また自分の英語に関する課題も見つけることができました。MSU の学生と出会って彼らの自分の考えをきちんと持っている姿に憧れを抱き、大学生のうちに自分が知りたいこと・学びたいことを全力でやろうと改めて考えることもできました。学芸にしながら海外の学生と交流でき、また日本の教育現場に行くことができるプログラムで、参加して本当に良かったと思います。